

I 第五中学校の概要

1 学校沿革史

昭和35年	4月	五中建設促進委員会発足
昭和36年	4月 4日	上田市第五中学校豊殿部、神科部校として開校式、校章制定
	9月 2日	第一期工事起工式
昭和37年	3月20日	第一期工事完了（第一棟玄関以西）
	9月30日	第二期工事完了（第一棟玄関以東）
昭和38年	3月30日	第三期工事完了（第二棟）
	5月20日	五中移動 開校式（開校記念日）
昭和39年	3月15日	講堂体育館工事完了
	5月20日	五中落成式、祝賀式挙行、校歌制定
昭和42年	4月20日	プール工事開始
昭和45年	11月 1日	開校10周年記念式典
昭和46年	11月24日	木工室建設完了
昭和49年	10月27日	校歌碑竣工式、除幕式
昭和53年	11月25日	五中用地拡張推進委員会発足
昭和55年	9月24日	開校20周年記念式典
昭和57年	10月 8日	特別教（三棟）新築工事着工
昭和58年	3月25日	第三棟工事竣工
	11月12日	校舎校庭竣工祝賀式
平成 2年	2月 1日	五中創立30周年記念事業準備会発足
	11月12日	開校30周年記念式典
平成10年	2月13日	部室棟完成
平成11年	10月30日	「五中人権宣言」五中人権デー
平成12年	10月 7日	開校40周年記念式典
平成14年	4月	完全週5日制スタート
平成22年	11月20日	開校50周年記念式典
平成27年	6月19日	五中応援団「チーム鳳」発足
令和 1年	10月19日・20日	台風19号による避難所開設
令和 2年	3月 2日～17日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業
令和 3年	4月 9日～5月31日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業
令和 4年	12月10・17日	旧校舎お別れ見学会開催
令和 5年	1月	仮設校舎完成 第三棟解体工事開始
	7月14日	校舎棟建設工事 安全祈願祭・起工式
令和 7年	2月14日	新校舎鍵引き渡し式
	2月28日～3月3日	引っ越し

2 学校環境について

◆上田市の東北部に位置する豊殿、神科両地区が通学区である。昭和32年8月1日に旧神科村、昭和33年4月1日に旧豊殿村が上田市に編入された。

両地区は、東の烏帽子岳山麓から中央に広がる神川の大扇状地を経て、西の太郎山麓にいたる面積34.2平方キロメートルの広大な地域である。南は遠く蓼科山、美ヶ原、北アルプス連邦を望む眺望の良い土地で、海拔500～800mに32地区が散在している。

◆創立年月日 昭和36年4月 1日 上田市立第五中学校豊殿部校・神科部校

開校記念日 昭和38年5月20日 上田市立第五中学校

◆学校の位置 東経 138° 17' 32"

北緯 36° 24' 18"

標高 568m

3 校章の由来



五中地区を俯瞰（ふかん）すると、鳳（おおとり）が飛翔している形をしています。校章はそれをかたどったものです。校章に象徴される第一の意義は神科・豊殿両地区協力の姿です。この双翼が五中を支え、協力し合うところに五中進展の基礎があるという意味をもっています。

第二として五中に生まれた若者たちは、双翼をはばたいて理想を追い続ける若鳥のように、実社会にあっても希望をかかげて有為の人材となってほしいという心をあらわします。

故北原白秋の高弟であり、現代詩人としては第一人者である藪田義雄先生による「五中校歌」が、この校舎を巣立って、紺碧の天空に理想を追求して飛翔する若鳥の姿を、感動的に格調高く歌い上げているのも、実にこの交渉の意図するものと同じなのです。

4 校歌

上田市立第五中学校の校歌は、現代詩人としては第一人者である藪田義雄先生によって作詞されたものです。この校歌は、校章をもとにして作られたので、この学舎を巣出して紺碧の天空に理想を追求し、飛翔する若鳥の姿を歌ったロマンあふれる歌です。

上田市立第五中学校 校歌	
作詞 藪田 義雄	
作曲 小山 章三	
一番	
つばき つばき 若きつばき	飛べよ千曲の水の上
飛べよ鳥帽子の峰超えて	風に羽ばたく若鳥われら
見よや 見よや 見よや	上野が岡を巣立ちて飛べり
二番	
つばき つばき 若きつばき	飛べよ星座を 黒潮を
飛べよ輝く未来図を	生まれながらの若鳥われら
見よや 見よや 見よや	上野が岡を巣立ちて飛べり

5 カンカン塚カンカン塚古墳の由来

校地の一隅にあるカンカン塚は、古墳文化末期のものである。当時、集落とその農耕地はこの古墳の南にあり最も勢力の有った人が自分の基地としてこの地を選び築いたのである。

虚空蔵山を背に鳥帽子、太郎山を両側に、南は一面に開けた最も景勝の地に、死後までその権威を示したものであり、当時をしのぶ貴重な文化財である。

大きな石を運んで造った石室のその資力と技術には驚くほかない。盗掘に合い埋蔵の貴重品の詳細について知ることはできないが、刀、鐙鉄器の破片、人骨等が出土している。



付記

カンカン塚のいわれは、平たい硬質な安山岩が僅か二点で支えられているため、たたくと石室の内部が共鳴してカンカンと響いたところから地区の人はこの名を言い伝えてきた。

尚、校地内に古墳をもつ学校は五中だけだそうである。

